

多様な立場の人たちが出会い、共に未来をデザインする 恵那市における実践について



岐阜県恵那市役所 恵那市地域包括支援センター
精神保健福祉士 社会福祉士 足立 哲也

恵那市は
どんなまち？

■ 人口:50,633人 (平成30年4月1日現在)

□ 高齢者人口 17,040人

□ 高齢化率 33.65%

人口減少・高齢化が進んでいます

■ 日常生活圏域数 3圏域

■ 包括支援センター(直営)1カ所 市役所内

■ 認知症地域支援推進員

H24年に2人設置。H25年に2人H28年に2人が修了。

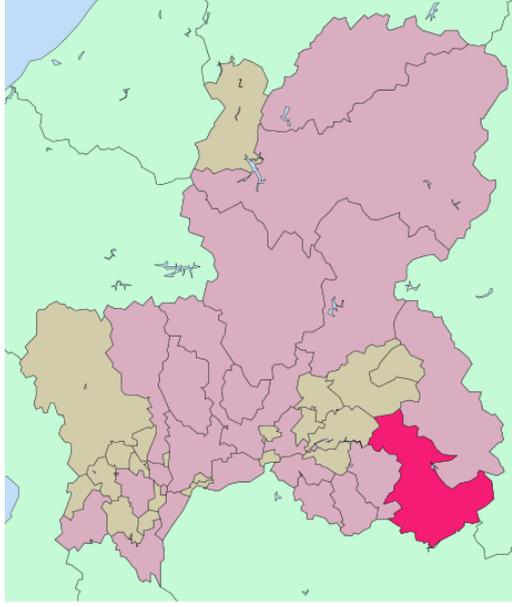
現在は私ひとりが地域包括支援センターで活動中。。。

恵那市の概要(2)

恵那市は、名古屋市を中心部からおよそ60キロメートル、岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した山紫水明の豊かな自然に恵まれた地域です。

東には恵那山、北には笠置山に囲まれ、また山あいには木曾川や阿木川、矢作川などが流れ、四季折々の姿を楽しむことができます。

歴史的な観光資源としては、中心市街地を横断する中山道大井宿、南部には800年の歴史を持つ女城主の城下町の岩村町(NHK連続テレビ小説 半分、青いの舞台)、レトロな雰囲気漂う日本大正村がある明智町があります。



50km

資料:総務省「家計調査」都道府県庁所在市別ランキング(H25~H27平均)

【外食が好き】

- ・和食(外食) 消費総額37,862円 全国2位
 - ・中華食(外食) 消費総額7,460円 全国3位
 - ・すし(外食) 消費総額18,876円 全国3位
- 人口1000人当たりの飲食店の数(居酒屋除く)4.04店 全国1位
(総務省 H26経済センサス 人口推計)

【喫茶店が好き】

- ・1年間の喫茶代 13,894円 全国2位(H21~H23では1位)
- ※1位の名古屋市は 14,301円 全国平均は5,770円

人口1000人当たりの喫茶店の数 1.43店 全国2位
 ※名古屋市のある愛知県は、 1.13店で全国3位

(総務省 H26経済センサス 人口推計)

恵那市で行なう 認知症支援施策

- 認知症の人と家族のつどい
- 認知症サポーターの養成・認知症ケア人材の養成
- 認知症予防
- 認知症の早期発見
- 若年性認知症に対する支援、市民への啓発
- 認知症の人を支援する関係者の連携強化
- 徘徊高齢者位置探索端末機の貸付
- 認知症カフェ
- 回想法事業
- 認知症支援多職種連携事業
- 認知症ケアパスの活用
- 認知症初期集中支援チームの推進
- 認知症地域支援推進員の事業の充実

(第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画(2018～2020年度)より)

- … 赤字 認知症地域支援推進員が主となって行っている事業
- … 本日、報告する内容(主に人と人をつなぐ事業)に関すること

市から求められている
推進員の役割について

- 1) 認知症の人と医療機関・介護サービス・地域の支援機関をつなぐ
コーディネーターの役割
- 2) 認知症本人と家族が参加できる事業の開催

多職種・多業種協働による
新しい社会資源・ネットワークづくり

恵那市の認知症支援施策は、医療・福祉専門職の多職種ネットワークが基礎になっています。

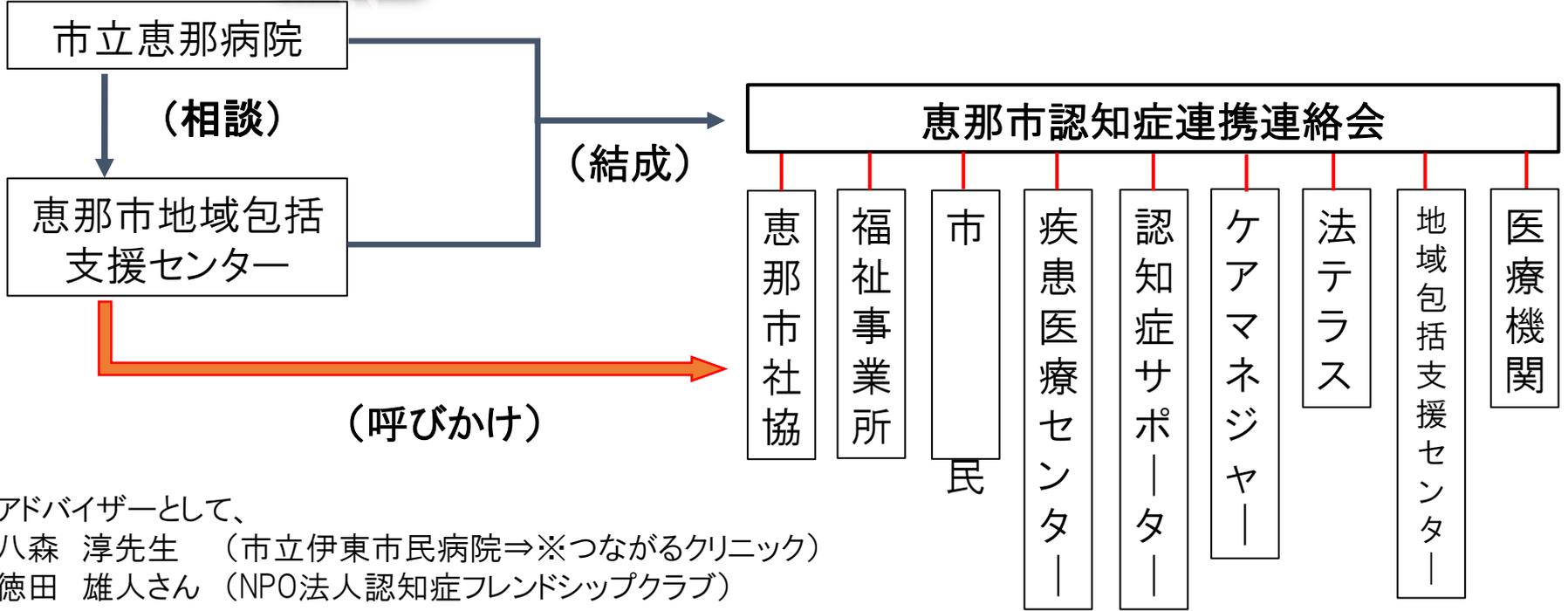
【きっかけ】

平成21年から始まった「認知症連携連絡会」
市立病院のもの忘れ外来を担当する細江医師からの相談で
地域包括支援センターの声かけによって結成。

病院管理者
細江雅彦先生
(もの忘れ外来担当医)



『もの忘れ外来をやってきたけど、実際の患者の生活の様子が見えてこない』



アドバイザーとして、
八森 淳先生 (市立伊東市民病院⇒※つながるクリニック)
徳田 雄人さん (NPO法人認知症フレンドシップクラブ)

『市内の多職種専門職が集う場』に

結成当初の連絡会の内容・・・

話し合う内容については、その都度その都度みんなで考えて決めていた。

たとえば・・・

当事者(介護家族)の話を聴く

地域の支え合い団体から話を聴く

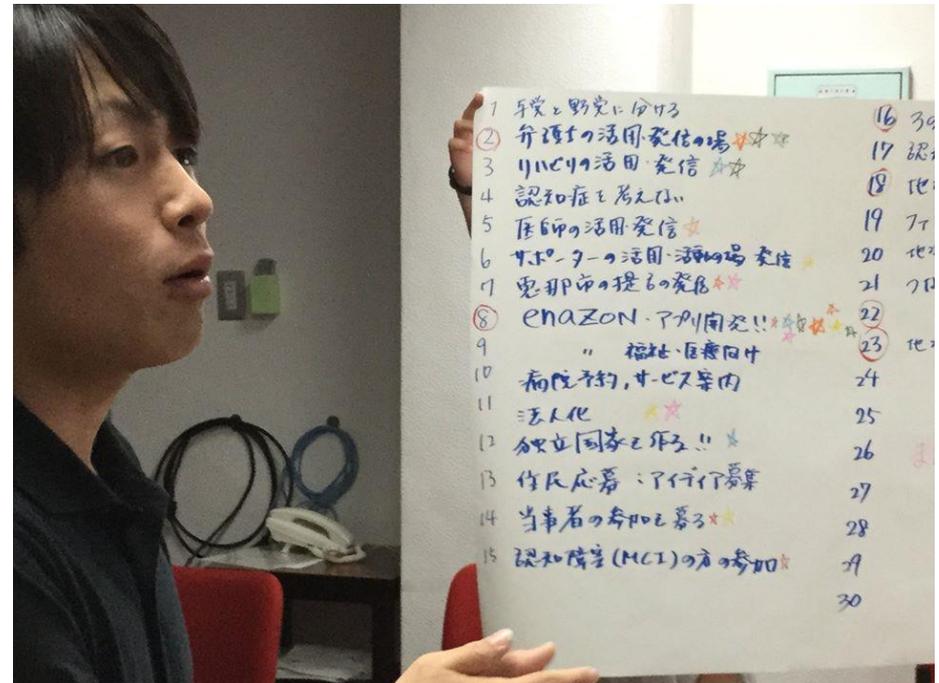
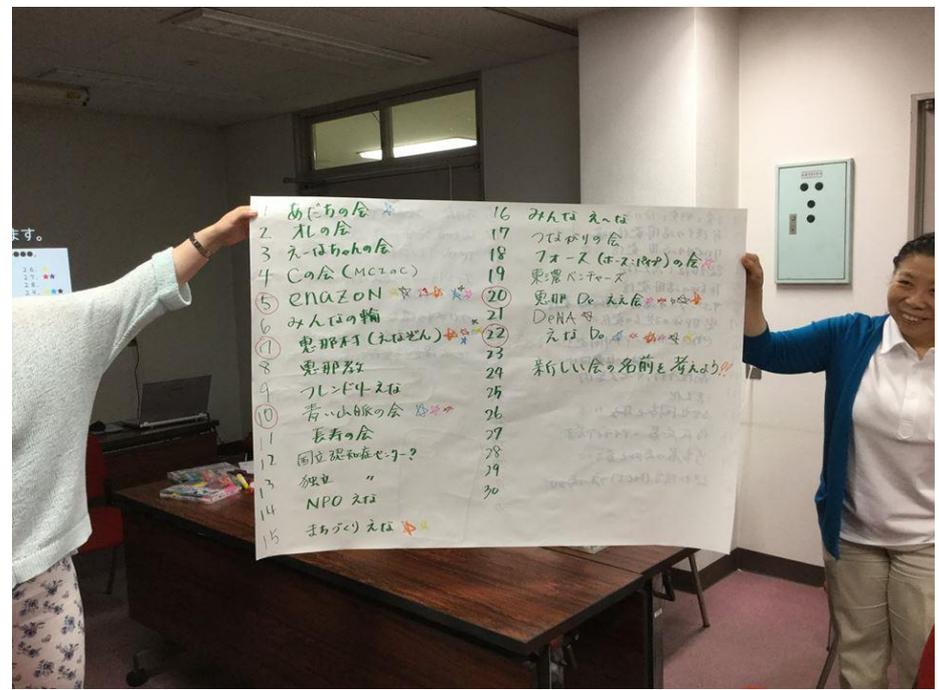
⇒多職種連携ネットワークから、自分たちができることを考えた。

もの忘れ外来家族会の結成

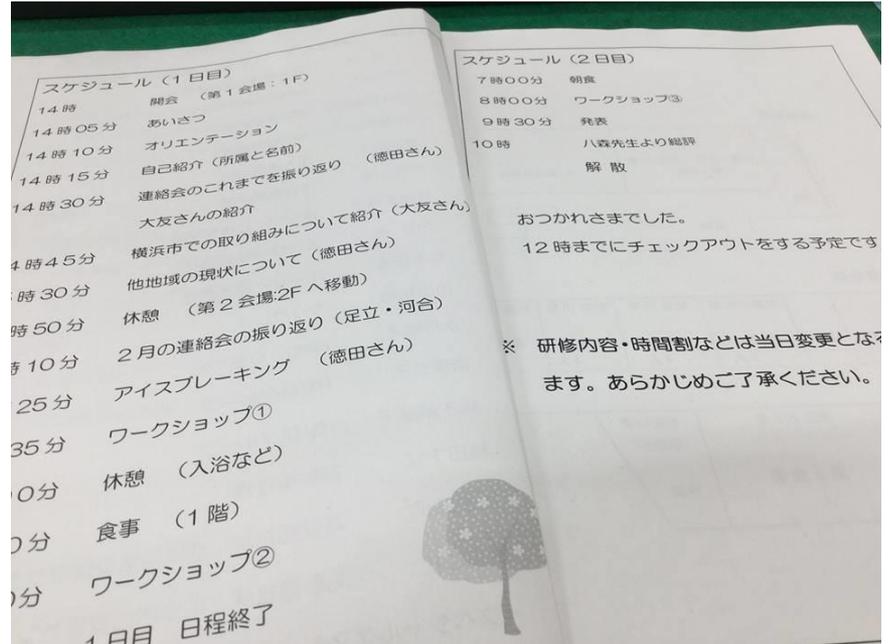
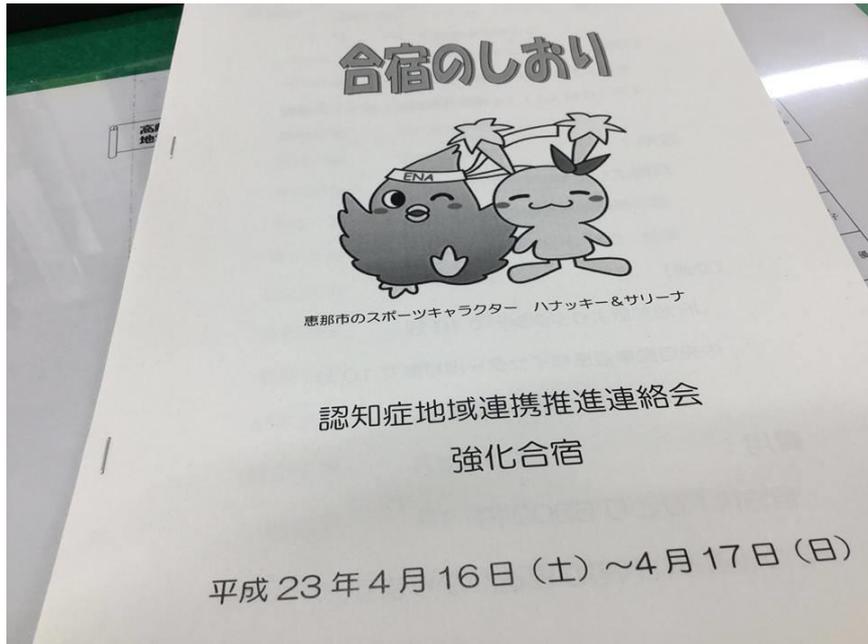
⇒病院で行っている「もの忘れ外来」を受診している家族に声をかけて家族会を結成。

スタッフは連絡会のメンバー。

(病院看護師・MSW・医師、地域包括支援センター職員、グループホーム職員)



平成23年4月にメンバーで(強化)合宿を実施。(市内の民宿にて)



合宿から生まれたアイデアたち(その1)

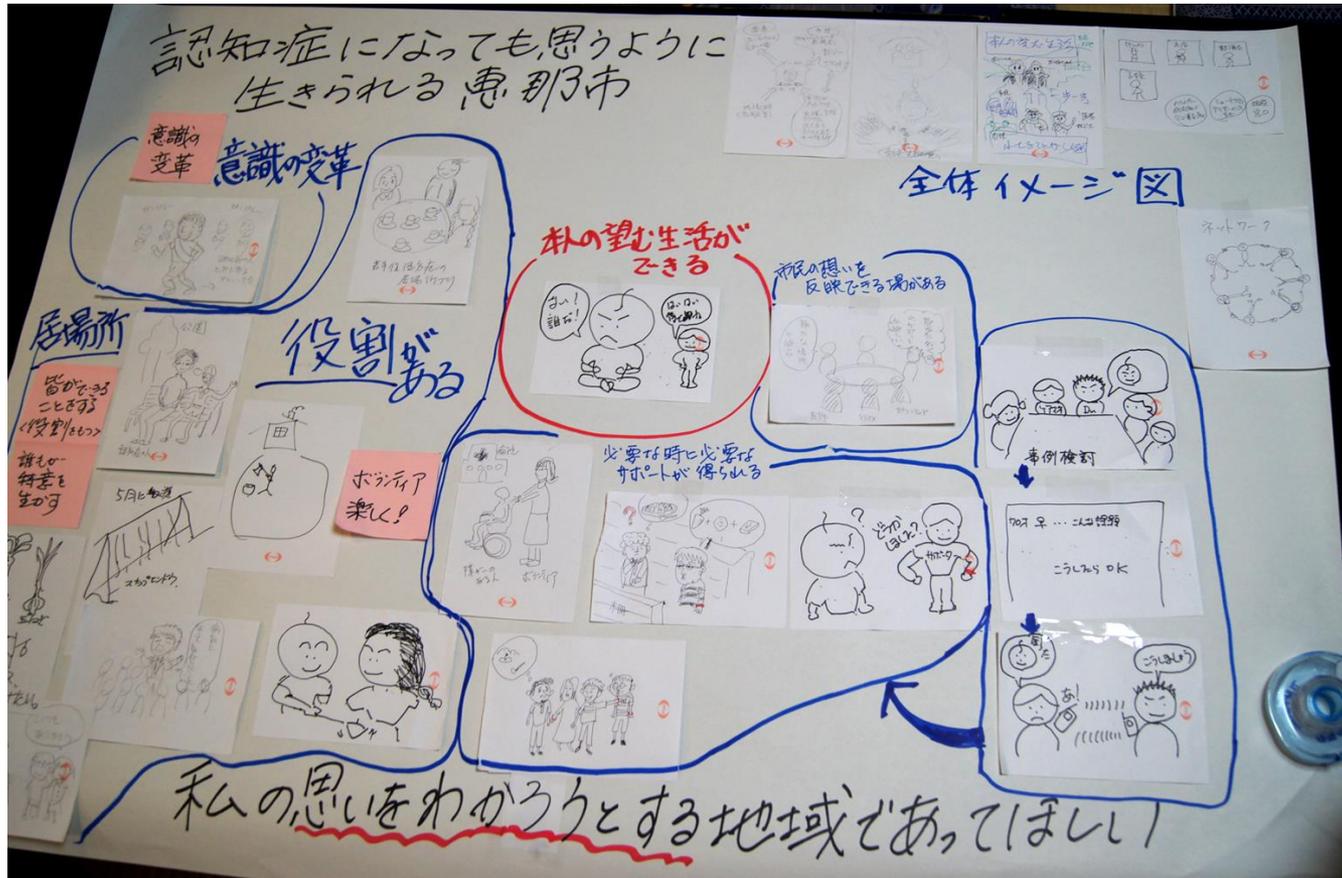
□認知症になっても安心して外出できる喫茶店・カフェの発想。



合宿から生まれたアイデアたち(その2)

居場所・役割⇒本人が望む生活ができる。

- マラソンを通じた、市民の意識の改革。
- 関係者同士の事例検討会の定着。



認知症地域支援推進員としての 活動報告

【ささゆりカフェをはじめのきっかけ】

はじまりは、認知症連携連絡会から始めた『もの忘れ外来家族会』（H22.10～）から…

2ヶ月に1回の開催。

- 家族（4名から6名の少人数参加）
- 病院スタッフ（医療相談員、外来看護師など）
- 包括支援センタースタッフ
- グループホームスタッフ

□参加者の声を聴き、年に1回外出行事を実施。

平成23年10月の企画として施設見学・交流（GHなど）

平成24年10月の企画として回想法センター・大正村散策

そして、

平成25年10月の企画としてカフェをスタート

（参加対象を広げて、誰でも参加できる憩いの場を）

【ささゆりカフェをはじめるきっかけ】

◎大事にしたいこと

『市民に広く知ってもらえて、親しみのあるカフェづくり』

そのための課題

- ①これまでやっている市主催の家族のつどい・病院の家族会との明確な違い
インスタントコーヒーやペットボトルの提供でもよいが、誰でも楽しめる雰囲気をつくりたい
- ②喫茶店などスペースを借りるにしても財源がない
- ③これまでたくさんの事業を企画してきたが、どれだけ広報しても知ってもらえる対象は限定的。

企画当初の私のイメージ

地域

地域に溶け込むことで、地域の人たちも「ジブンゴト」として捉える
これまで出て来られなかった人の外出と出会いの機会に

カフェを作るうえで、イメージしたのは「地域活動支援センター」。
「誰でも通える場」として、精神保健福祉士が常駐し、カフェが一体となったリラックスした環境でカウンター越しにあらゆる悩みや地域交流活動のサポートを行っている姿を、認知症のご本人や家族にも落とし込めないか。と考えた（足立）

ささゆりカフェ



職場・法人等の垣根を超えたつながり
「多職種連携ネットワーク」

市内を中心とした医療・福祉施設の専門職

民間企業
CSR

「共に考える・共につくる」地域社会の一員。
コーヒー・お菓子、ホスピタリティ、装花・場所の提供



平成25年9月 店舗へ企画持ち込み

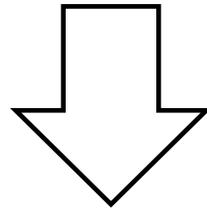


初回開催時の様子（市立恵那病院内喫茶店にて）



順調にスタートしたと思われた ささゆりカフェ

しかし、1年後に病院の都合で、喫茶店を閉鎖することに



「私達、これからどうしたらいいの？」
路頭に迷う



スーパーの多目的広場・企業(住宅展示場)の大ホール



開業医(認知症サポート医)

スターバックスコーヒージャパン
恵那峡SA店のパートナー

地域包括支援センター
精神保健福祉士

研修医

MSW

ケアマネジャー

認知症認定看護師

地域包括支援センター
社会福祉士

福祉大学の学生

研修医

ケアマネジャー

認知症サポーター

独立型社会福祉士

不動産屋





恵那市が主催する認知症カフェ事業

・市内の医療福祉の専門職と
地域社会貢献事業を大切にする
民間企業とのパートナーシップによる運営

・移動型：年に8回開催



■開催日時や開催場所

時間は、平日の午後2時～4時（出入り自由）

日にち、曜日、場所は固定していない（年8回のペースで開催）

■料 金

無料

■内 容

決まったプログラムはない 自由におしゃべり 個別相談もできる
30分程度で演奏会などを開催することもある（不定期）

■申し込み

原則必要

（相談の有無、様子の確認、事前にある程度の人数を把握するため）

※申し込みなしでも可

■運営費

市の予算として

施設使用料、案内郵送料、消耗品費（チラシなど）

コーヒー専門店と冠婚葬祭業と共に取り組む



恵那市中央図書館にて



上矢作町：圓頂寺にて

みんなの「やりたい！」「やってみたい！」を応援する



結婚式場のホワイエにて

会場提供者の想いや課題を一緒に考え企画に取り込むことで 一方通行の関係では無く、関係に継続性が生まれる



地域に開かれた場所を目指す寺院と
早朝からチョコブラウニーを焼く住職

多くの人に、素晴らしい本と出会って欲しいと
いう図書館の想いと。
⇒認知症に優しい書籍のブックリスト作成

ささゆりカフェの開催を通じて



認知症について

「深く考えたことがなかった」「関心がなかった」

人たちとどうしたら、つながることができるか



そして、どうしたら「認知症」について、

「ジブンゴト」として考えてもらえるだろうか？

ささゆりカフェは、移動型認知症カフェ

場所探しを通じて認知症の事を知るきっかけが生まれたり、
認知症と共に歩む本人の居場所が地域に増える事を目指す

【「走る」ことをきっかけに新しい出会いとつながりを深める】

- 平成26年10月5日(日)実行委員会を立ち上げて、RUN伴を実施。(恵那～名古屋)
- 平成27年度は、より地域に密着した内容にするために、RUN伴PLUSに切り替え
- 平成28年度・29年度も、「えなRUN伴PLUS」として開催。
いつも親身になって一緒に行動してくれる地元の企業の会長が実行委員長をつとめ、
新しいステークホルダーに広がっていく。
(H28年度から市は後援に。市民主体でジブンゴトとしてまちを動かす)



⇒⇒⇒恵那でRUN伴を実施するきっかけ

1年前・・・【認知症の人 本人による講演会の開催】(平成25年12月)



静岡県富士宮市在住
佐野光孝さんと妻の明美さん

インタビュアーは、
富士宮市役所の稲垣康次さん





富士宮市の担当者と
事前打ち合わせを行う中で、恵
那市出身で富士宮市内グルー
プホームで暮らす夏目さんの
存在を知る。
「故郷でも走りたい！」という想
いを聴く。

講演会の前(平成25年9月)には、佐野夫妻の暮らす富士宮市へ。
地域でどのように過ごされているのか、周囲にはどのようなサポーターが??
富士宮市に渡り、**RUN伴2013**で一緒に走ったことで実際の様子を実感した。
⇒恵那市と富士宮市とのつながりのきっかけ・・・さらにつながりは深まり広がる



夏目さんの故郷周辺で働くスタッフが、
夏目さんの同級生捜しに奔走する。
「あの人に会いたい」企画



朝9時から恵那市役所前でゴールイベント開催! ランナー達をみんなで一緒に迎えよう!!

みんな集まれ!

RUN伴とは認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、みんながタスクをこなすランニングイベントです。沿道の応援やゴールイベントにぜひご参加ください。

9時〜 物販出店 ◯フリーマーケット ◯認知症への取組展示

10時〜

- カレーライス (協賛: マリアージュ)
- 認知症予防体操・コグニサイズ
- コーヒー (協賛: コーヒー専門店)

10時30分〜 ランナー達に届け! バンド演奏

10時30分〜 参加者全員で風船飛ばし

ゴールイベント開催!

ゆるキャラも応援参加!

RUN伴でみんながつながるんだ!

市民会館がメイン会場となります

詳細は当日の状況により若干変更になる場合がございます。ご了承くださいませ。

N伴+(PLUS)2016実行委員会 まで
城包括支援センター内 電話0573-26-1111

N伴+(PLUS)2016実行委員会 後援/恵那市地域包括支援センター

ゴールイベント開催!

ゴール: 恵那市役所

スタート: 7:40 START (車庫・上矢作ルート)

スタート: 9:00 START (山岡・明智ルート)

スタート: 9:15 START (岩村コミュニティセンター)

スタート: 9:22 START (坂地ルート)

スタート: 9:50 START (農業者トレーニングセンター)

スタート: 10:00 START (阿木・東野ルート)

スタート: 10:30 START (中野方ルート)

スタート: 10:55 START (阿木公民館)

スタート: 11:00 START (大井・長島ルート)

スタート: 11:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 12:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 12:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 13:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 13:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 14:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 14:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 15:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 15:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 16:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 16:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 17:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 17:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 18:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 18:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 19:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 19:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 20:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 20:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 21:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 21:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 22:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 22:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 23:00 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 23:30 START (中野方コミュニティセンター)

スタート: 24:00 START (中野方コミュニティセンター)



2018ゴールイベント開催時

認知症地域ネットワークフォーラム2016を恵那市で開催

恵那市・名古屋市・豊橋市・富士宮市・焼津市など RUN伴でつながった仲間たち

⇒⇒ 『対話』から共に未来を考え、デザインする



ビッグフィッシュボウル



マグネットテーブル



クイックプロトタイピング



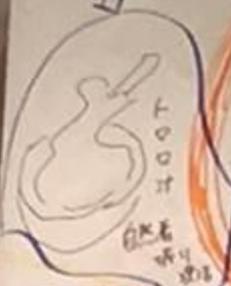
クイックプロトタイピング

訪問活動

同じ・もりのついで、不った(ぬい)たの
おんじい

それぞれのおちで
「しん」を表現でさるより大り

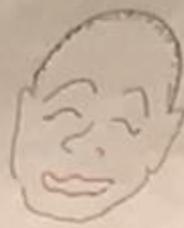
活動支援



仲間と話せる



湯本さん



竹内さん

募集中
広島
10-11

外に出る

きっかけ

知症の経験

彼を支援しに



パートナー

「エイジ」

「エイジ」
今日も誕生!





公立病院内の多職種間で『病院として地域のためにできる事』を話し合う
国保上矢作病院(上矢作町)

認知症になっても、明るく笑顔で暮らせるまちへ

Dスマイルの 駄菓子 de カフェ

★好きな駄菓子を選んで、買える♪

★手作りケーキとドリンク付き♡

5月27日(土)
14時~16時

岩村コミュニティセンター
大ホール

参加費 100円

カフェ×駄菓子×認知症

認知症は治療できるの？
認知症の相談はどこへ
行けば良いの？
など...

★サイコロを振って、
認知症のことを知ろう！

プログラム

14:00 カフェタイムはじまり
駄菓子を選んで盛り上げよう♪

14:30 わくわくワークタイム
「サイコロを振って、
認知症のことを知ろう」
いわゆるサイコロトーク！

16:00 おわり

認知症や介護の
相談ができます。

認知症は誰にでも訪れる病気です。
認知症になった時、人生を楽しむこと
を諦めずに済むように、地域が変わっ
ていくことを目指して開催しています。

運営 D-smile
主催 NPOくわのみ (0573-43-0148)
協力 介護まちなか相談所・いわむらの戀
こころの丘・国保上矢作病院
中京学院大学 看護学部

※予約不要。誰でも参加できます。

朝日新聞厚生文化事業団助成事業

同じ地区の複数の福祉事業者と住民が協力して
認知症カフェを立ち上げ(H29.4~)
Dスマイルカフェ (岩村町)

- 4月から、メイト宛てに100通のニュースレター送信
⇒「認知症の人のこころの内」「まちづくり」「ADIなど社会のこと」
- キャラバンメイト・ネットワークミーティングの開催（フューチャーセッション）
⇒メイト同士の連携のために「対話」の場をつくる。
各々の思いの共有
自分たちが「まちづくり」に参加しているとワクワクする気持ちをもってステップアップ！



認知症支援推進多職種連携研修会 VOL. 1



★オランダ外認知症フレンドリーアワード
2015 大賞受賞
★グッドデザイン賞2015 受賞

旅のことばワークショップ
2017.9.29 (金) 10時30分～15時 (10時受付開始)
恵那市中央図書館 2階セミナールーム
講師：金子智紀氏 慶応義塾大学環境情報学部 井庭崇研究室

「認知症になると何もできなくなる」という思い込みが、認知症の真の側面を増幅させ、本人や家族の希望を奪ってしまうことが社会でよく見られます。
『旅のことば』は、認知症と診断された後もいきいきと暮らしている方の生活の秘訣をまとめ、他の方々が自分に取り入れられるようにと生み出された、認知症とともに前向きに生きるためのヒント集です。
みんなで「認知症とともに良く生きる」ことについて対話をしながら、内容を理解し実践し、扱い方を学ぶことで、認知症に関する新しい流れを生み出してみませんか。
医療・福祉の専門職だけでなく、認知症と共に今を歩んでいる方やご家族もぜひとも参加ください。



対象/医療・福祉関係者、認知症サポーター・キャラバンメイトなど
認知症の人が暮らしやすいまちづくりについて共に考えたい方
定員/40人程度
日時/9月29日(金) 10時30分から15時 (10時受付開始)
場所/恵那市中央図書館 (駐車は恵那市役所駐車場を利用下さい)

参加申込
お問合せ
恵那市地域包括支援センター 足立まで
電話：0573-26-2111内線172 ファクス：0573-25-7294
【氏名・連絡先・所属(立場)】を電話もしくは直接ご連絡ください。



恵那市認知症支援推進多職種連携研修会VOL. 2
えなRUN伴PLUS2017 であい・つながるフォーラム

**認知症になっても人生は終わらない！
絶望なんてしてられない**

本人・家族によるエピソード

11/11(土)
12:00 (11:30受付) ~ PM4:00
恵那市中野方コミュニティセンター 大ホール
岐阜県恵那市中野方町1802-1

参加費
無料
要申込
定員80人

～スペシャルゲスト～
曾根勝 一道さん・曾根勝 重美さん
伊藤 広美さん・下崗 誠さん
(大阪府堺市 若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会 希望の灯り)
竹内 裕さん (広島県広島市在住 ためぎ倶楽部)

主催：恵那市地域包括支援センター・えなRUN伴+2017実行委員会
共催：認知症フレンドシップクラブ恵那事務局
申し込み・問い合わせ先：恵那市役所 恵那市地域包括支援センター

認知症支援推進多職種連携研修会 VOL. 3



誰もがまちの主人公に × 認知症フレンドリー社会 × 地域包括ケア

エキスパートとの対話から学ぶ！
一人ひとりの課題解決から
まち全体の幸せを考える
2017.11.23 (木・祝)

13時30分～16時 (13時受付開始)
恵那市消防防災センター 3階 防災研修室

対象/医療・福祉関係者、認知症サポーター・キャラバンメイトなど
認知症の人が暮らしやすいまちづくりについて共に考えたい方
定員/60人程度

参加申込
お問合せ
恵那市地域包括支援センター 足立まで
電話：0573-26-2111内線172 ファクス：0573-25-7294
【氏名・連絡先・所属(立場)】を電話もしくは直接ご連絡ください。

旅のことばワークショップ

本人・家族の声から考える

認知症フレンドリーと
地域共生社会



「認知症の人にやさしいまちって誰がつくるんだらう？」



認知症と共に歩む本人の声から「暮らしづらさ」について考える
暮らしを形づくる「様々な立場の人」達と一緒に
「まちのあり方」を考えて、アクションに結びつける

カフェ・RUN伴PLUS, フォーラムなどを通じて生まれた 1つひとつのグッドストーリーの共有



大切なことは「対話」の時間がもてること
認知症の方どうしのつながりが生まれたり
家族の方の出会い交流が生まれたり
普段の介護サービス利用時には見られない表情も・・・
実は地域で生まれている1つひとつのグッドストーリーを共有すること

課題とこれからの展開

居場所というモノは、本来もっと身近なところにあるべきではないか？

たった年8回開催のカフェで全てをカバーできるものではない

ささゆりカフェ、RUN伴PLUS、フォーラムなどをきっかけとした新たな繋がりから、別の場所では出会ったり。

自分自身が行きつけだった喫茶店で馴染みのマスターや常連客と笑って過ごすような当たり前の姿が広がっていくべき。

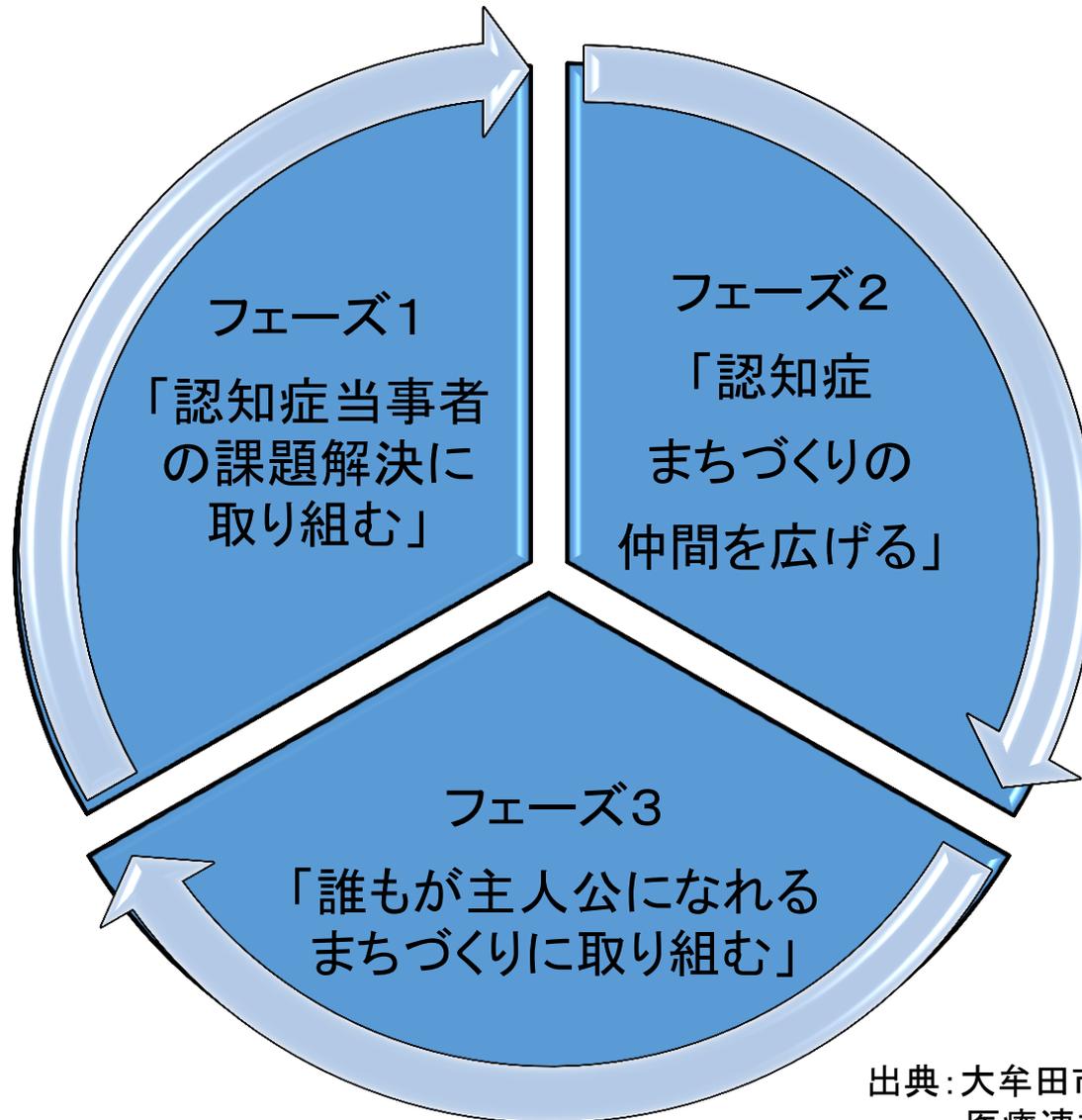
一方的な「お願いごと」からの脱却は、働きかける立場の者がそのコミュニティに同じ市民という立場で溶け込むことが前提では？

発表者自らが朝5時半に喫茶店に。常連になってたわいもない話をして過ごす。

⇒「認知症にやさしい認定喫茶構想」



認知症にやさしいまちづくりに 必要な3つのフェーズ



出典:大牟田市 白川病院
医療連携室長 猿渡進平氏

おわりに

「認知症カフェ」・「RUN伴」・「フォーラム」は、開催することが最終目的ではない。

参加者それぞれがここを大切な場所であると感じて、
新たなコミュニティを作り上げ、新しい一歩を踏み出している姿が重要。

行政や民間などといった隔たりのない、まちの多くの人たちが集まり共に考えるきっかけを用意することも私達の使命。

「認知症と共に歩む本人の声から考え、応援したい一人ひとりの顔を思い浮かべることができるような働きかけ」
個人へのアプローチ

同時に

「仲間の輪が強く大きく育っていく働きかけ」
地域へのアプローチ

地域共生

ご清聴ありがとうございました。